

豊科町誌 歴史編・民俗編・水利編 目次

口 絵
例 言

歴史編

第一章 考 古

第一節 豊科町の埋蔵文化財(遺跡)	三
第二節 原始の豊科	九
一 旧石器時代の豊科	九
二 縄文時代の豊科	一〇
三 弥生時代の豊科	一四
四 古墳時代の豊科	一七
第三節 古 代	二〇
一 律令制下の地方と社会	二〇
二 発掘された古代の村	二一
三 人々の暮らし	二五
1 住まいとその構造	二五
2 食器と食生活	二五
3 生活の諸相	二五

四 古代の生産	三二
五 古代の流通	三三
六 東山の「焼き物」の村	三五
1 「焼き物」の村の成立	三五
2 窯跡群の調査	三五
3 窯跡の分布	三五
4 須恵器窯の構造	三五
5 生産された須恵器	三五
6 須恵器の変化と時期区分	三五
7 多様な生産	三五
8 山の中に広がる集落	三五
9 土器生産の開始と展開	三五
10 生産の背景	三五

七 古代の景観	五三
第四節 中・近世	五六
一 発掘調査の成果による新しい中・近世像	五六
二 開発と村落支配の拠点―居館跡―	五七
三 寺院と村落	六〇
四 人々の暮らし	六三
1 住まいとその構造	六三
2 暮らしの道具	六三
3 食器と食生活	六三
五 中・近世の景観	六九

第五節 過去から現代、そして未来へ……………七二

第二章 古代・中世

第一節 安曇郡の成立と古代の村……………七三

一 安曇郡の成立……………七三

二 高家郷……………七三

三 八原郷……………七六

四 前科・村上郷……………七八

第二節 庄園制下の村……………七九

一 はじめに……………七九

二 住吉庄……………七九

1 領主 2 在地領主……………七九

三 庄園遺構としての社寺―庄園村落の復元―……………八三

1 住吉神社(楡) 2 平福寺(長尾) 3 薬師堂(横

沢) 4 法輪寺(氷室) 5 長徳寺(一日市場)

6 日光寺(下鳥羽) 7 寺所の観音堂 8 まとめ……………九〇

四 矢原庄……………九〇

1 領主 2 矢原庄の遺構 3 細萱郷の開発 4

領域……………九九

五 会田御厨と田沢の開発……………九九

第三節 戦国時代の村……………一〇一

一 中世の支配形態……………一〇一

二 武田氏の来襲……………一〇三

1 塩尻峠の戦い 2 府中の陥落 3 野々宮の戦い

4 中塔城の籠城 5 平瀬城の戦い 6 小岩岳城の

戦い 7 刈谷原城の攻防……………一一二

三 町内の城館跡……………一一二

1 光・田沢城 2 真々部氏館跡 3 成相氏館跡

4 構えの墓屋敷跡 5 鳥羽館跡 6 飯田館跡

7 吉野中村の堀屋敷 8 吉野町館跡 9 細萱殿村

館跡……………一一三

第四節 古代・中世の交通路……………一三五

一 東山道……………一三五

二 古厩と千国道……………一三七

三 中世の千国道……………一四〇

四 中世末期の交通路……………一四一

第三章 近世

第一節 村制……………一四三

一 筋と組……………一四三

1 筋 2 組 3 組手代の源流 4 組手代(大庄

屋)の任務……………一四三

二 村役人……………一五〇

1 庄屋の源流 2 庄屋名一覧 3 庄屋・組頭の任務

4 庄屋・組頭の選任 5 長百姓・長立 6 作世話役

三 五人組……………一六八

1 年貢の納入と連帯責任 2 宗門改めと連帯責任

3 博奕と連帯責任 4 五人組の編成……………一七三

四 宗門改めと宗門送り……………一七三

1 宗門改め 2 宗門送り(戸籍送り) 3 久離

五 戸口・家族・婚姻圏……………一七六

六 村 定 め 一八九

第二節 税 制 一九三

一 天正・慶長・寛永検地 一九三

二 慶安検地 一九五

1 慶安四年検地帳 2 斗代 3 慶安検地の意義

4 小帳(下ヶ札) 5 新切検地 6 田畑入下げ検地

三 年貢の収納 二二三

1 検見と免状 2 定免と免状 3 小物成・小役

4 年貢の個人への割り当て 5 年貢の未進と土地売買

6 庄屋の徴税責任と算違い 7 未進年貢の他借処理

8 無主地(欠落ち・つぶれ百姓) 9 年貢の郷倉預かりと払い

四 課 役 二二三

1 屋丁役 2 鍵役

五 村 入 用 二三八

六 貞享騒動の年貢の収納 二四一

1 こぼれ糶のぎ踏み 2 二斗五升挽 3 二〇分一

大豆金 4 さし米・津出五里 5 小人の余内金

6 訴訟の焦点

第三節 農 業 二五一

一 百姓の土地所持状況 二五一

1 近世前期の様相 2 近世中期の状況 3 近世後

期の様相と地主経営 4 地主の作年貢の回収状況

二 自小作の状況 二六一

1 経営規模 2 小作慣行

三 作奉公人 二七四

1 譜代奉公人 2 年季奉公

四 農業技術 二七七

1 農具 2 肥料 3 刈敷 4 れんげ草の出現

5 稲の品種 6 病虫雀害の予防 7 畑作物

8 農事暦(嘉永六年)

五 作 間 稼 二九三

1 概観 2 養蚕と製糸 3 鳥羽織・足袋底織

4 店商 5 酒屋 6 紺屋 7 瓦焼き 8 駄

第四節 近世に開発された用水堰 三〇九

はじめに 三〇九

一 新田堰と吉野堰 三〇九

1 新田堰・吉野堰の成立年代 2 中曾根村と井代頼論

争 3 新田堰・熊倉堰の堰普請

二 矢 原 堰 三二二

三 勘左衛門堰 三二四

1 開さくの動機 2 古堰の復活と鳥羽堰への復帰運動

3 大改修 4 維持管理 5 まとめ

四 十 か 堰 三三〇

1 開さくの経緯 2 開さく普請 3 井口規定と井

懸り村の水田化 4 水揚げと維持管理 5 梓川横断

のサイホン化

五 用水堰慣行 三四〇

1 梓川番水のときの規定 2 梓川諸堰と和田堰との争

論 3 田沢川番水史料 4 上ノ山池の雨乞い祭り

第五節 成相・新田両宿の成立とその発展……………三四五

一 はじめに……………三四五

二 成相・新田両宿の成立……………三四六

三 宿場の形態……………三五一

1 町割と屋敷 2 問屋と伝馬 3 村役人

四 中馬・通船との抗争……………三五九

1 中馬との争論 2 享和三年の松本町つけ出しの荷品
と口銭 3 犀川通船との抗争

と口銭 3 犀川通船との抗争

五 新田堰の開さく……………三六四

六 大地主の成立……………三六五

七 戸口の推移……………三六九

1 人口動態 2 定着性 3 家族構成

八 商品経済への転換……………三七四

1 市場の衰頹 2 商品経済への転換

第六節 林野……………三七七

一 内野……………三七七

1 踏入村の場合 2 その他の村 3 田沢村の内山

4 元禄一三年の鳥羽・真々部と中萱との原境論

二 入会山への加入……………三八五

三 田沢・光山入会の分布状況……………三八八

四 田沢・光山入会争論……………三九一

1 寛永年代の争論 2 寛文一一年の山論 3 寛文

一二年の山論 4 安永九年の新開願 5 天明年代の

山論 6 寛政四年の山論 7 文化・文政期の山論

五 鳥川山入会山論……………三九六

六 その他の入会山……………四〇一

1 浅川山入会 2 鳥川谷一ノ沢入会

第七節 寺院・神社……………四〇三

一 寺院……………四〇三

1 周岳山信楽院法蔵寺 2 無量山阿弥陀院専念寺

3 住吉山真光寺 4 金桑山真珠院(金龍寺) 5 大

円山真行寺(正敬寺) 6 勢至山円通寺 7 医王山日

光寺 8 萬水山常光寺 9 立興山正覚院 10 祝

融山岩松寺 11 清浄山円証寺(海野山高山寺) 12 鶴

尾山仏法寺 13 豊興山一乗寺

二 神社……………四一一

1 洲波神社(細萱) 2 八幡宮(重柳) 3 八幡宮・

飯綱社(踏入) 4 諏訪松尾神社(寺所) 5 吉野神社

6 本村神社 7 新田神社 8 八坂神社(成相)

9 大同神社(下鳥羽)諏訪神社(上鳥羽) 10 諏訪神社

(真々部) 11 諏訪神社(飯田上下両社) 12 諏訪神社

(中曾根) 13 春日神社(熊倉) 14 神明宮(田沢)

第八節 近世の諸相……………四三〇

一 免状……………四三〇

1 成相本村の免状 2 田沢村の免状 3 光村の免

状……………四四四

二 犀川筋村境・川除け争論……………四四四

1 元禄年代の田沢村と寺所・踏入村の境論 2 田沢村

村内の犀川の堤防 3 享保一四年の川除け争論
4 宝暦年代の川除け争論 5 明和年代の争論

6 寛政年代の争論 7 文政・天保年代の争論
 8 弘化・嘉永以降の争論 9 明治二年の川除け普請下
 見絵図

三 梓川沿岸諸村の川除け・災害……………四五八

1 寛保元年の水害 2 寛保二年の水害 3 上真々
 部五か村の川除け 4 宝暦七年五月の洪水 5 弘化
 四年二月の工事仕様書 6 慶応元年五月・六月の梓川洪
 水による成相組諸村の水押家屋状況

四 寺子屋……………四六二

1 概観 2 町内の筆塚

五 幕末期の騒動……………四七二

1 小谷騒動 2 会田騒動

六 江戸時代の旅行……………四七四

1 五智・米山参詣 2 上方神社仏閣名所旧蹟順拝
 3 往来手形 4 善光寺参詣女手形

七 火消し……………四七八

八 盗難品……………四七九

九 無尽史料……………四八一

1 文化七年の無尽定 2 文化一四年の無尽定
 3 文政五年の無尽帳 4 大正二年十二月二十日無尽帳

一〇 光村与助(藤松)村方と祭礼座席争い文書……………四八五

一一 慶応三年一月細萱村への御札降り……………四八六

一二 郷鑑……………四八七

1 文化四年の下鳥羽村郷鑑 2 文化四年本村郷鑑
 3 宝暦三年上鳥羽村の書上げ

第四章 村落史

— 近世の景観・地名と伝承を中心にして —

はじめに—概観……………四九三

第一節 吉野……………四九四

第二節 鳥羽……………五〇五

第三節 成相本村……………五一九

第四節 成相・新田……………五二八

第五節 寺所……………五四一

第六節 踏入……………五四五

第七節 細萱……………五五七

第八節 重柳……………五六九

第九節 真々部……………五七七

第一〇節 飯田・小海渡……………五八六

第一一節 中曾根……………五九七

第一二節 熊倉……………六〇四

第一三節 田沢・光……………六一六

付年表……………六三三

民俗編

第一章 人の一生

第一節 産前・産後……………六六五

一 産前 六六五

1 妊娠と知らせ 2 岩田帯 3 産前の祈り

二 出産 六六五

1 出産と夫 2 出産の場 3 出産 4 へその緒 5 産湯

三 産後 六六六

1 産飯 2 三日祝 3 命名 4 産婦

第二節 乳幼児・児童期 六六七

一 乳幼児期 六六七

1 宮参り 2 節句 3 食い初め 4 お誕生 5 抱疳流し

二 児童期 六六八

1 七五三(帯結び) 2 学校あがり

第三節 青年期と婚姻 六六九

一 青年期 六六九

1 男子 2 女子 3 成人

二 婚姻 六六九

1 嫁取り婚 2 婿とり婚 3 婚後の生活

第四節 人生の節目の祝いと死 六七二

一 年祝い 六七二

二 死と葬 六七二

1 臨終の儀礼 2 死者への供物 3 死の知らせと葬儀の手配 4 納棺 5 葬儀

第二章 衣・食・住

第一節 衣生活 六七四

1 用布の変遷 2 糸から布へ 3 染め 4 布か

ら衣へ 5 仕事着 6 常着と夜着 7 かぶりもの・履物 8 晴れ着・外出着 9 花嫁・花婿衣装

第二節 食生活 六八〇

一 主食の変遷 六八〇

1 米 2 大麦 3 小麦 4 蕎麦 5 粟ヒエ

二 自給の副食(畑物) 六八一

1 採取・果物・魚介・虫類 六八一

三 採取・果物・魚介・虫類 六八一

1 果樹 2 魚介類 3 鳥・卵 4 肉・乳 5 虫類

四 食物の貯蔵 六八二

1 穀物 2 越冬用野菜 3 乾燥貯蔵

五 食物の調整 六八三

1 主食の煮炊き 2 味噌作り 3 自家用醬油造り 4 オシヨユノミ 5 寒気利用の食品 6 漬物

六 購入食料 六八四

1 塩 2 海産物 3 果物・青物

七 食制 六八五

1 定まった食事 2 食事の場所 3 食器 4 食物の分配 5 食事の作法 6 陰膳 7 神仏への供え

八 日常の食事 六八六

1 冬の常食 2 春・夏・秋の農繁期

九 晴れの食……………六八七

1 婚礼 2 内祝い 3 村祭り 4 年とり

5 正月 6 節句などの餅

一〇 仏事の食……………六八八

1 葬儀 2 法事 3 彼岸・盆

第三節 住まいとくらし……………六八九

一 住まいの立地条件……………六八九

二 屋敷……………六八九

1 屋敷地 2 垣根 3 門・塀・石垣 4 屋敷神

三 母屋……………六九〇

1 母屋 2 母屋の規模 3 屋根の造り 4 母屋

の内部構造 5 付属屋

四 町内の古い民家……………六九四

1 寄せ棟造り草葺き屋(熊倉) 2 切妻本棟造り板葺き

屋(飯田) 3 寄せ棟造り草葺き屋(田沢) 4 寄せ棟

造り草葺き屋(吉野) 5 切妻本棟造り板葺き屋(重柳)

6 寄せ棟造り草葺きと板葺き切妻造り(増築型)上鳥羽)

第三章 年中行事

一二月……………七〇〇

1 冬至 2 すす払い 3 あらみたま 4 松飾り

5 餅つき 6 年取り

一月……………七〇一

1 元日 2 仕事始め 3 三日の年取り 4 七日

粥 5 松納めと三九郎の用意 6 豊科のあめ市

7 若年 8 小正月 9 二十日正月

二月……………七〇三

1 節分 2 涅槃会(ねはんえ)

三月……………七〇四

1 彼岸 2 社日

三月・四月……………七〇四

1 雛祭り 2 花祭り 3 水口祭り

五月・六月……………七〇五

1 端午の節句 2 まんがれ(馬鋏洗い)

七月・八月……………七〇六

1 農休み 2 七夕 3 お盆 4 風祭り

九月……………七〇七

1 十五夜 2 秋彼岸

一〇月……………七〇七

1 十三夜 2 稲あげとこぼしやけ

十一月……………七〇八

1 十日夜(とうかんや) 2 えびす講

第四章 講

第一節 念仏講……………七〇九

一 念仏講……………七〇九

1 民間の念仏―中世― 2 民間の念仏―近世―

二 念仏塔・名号塔・名号書……………七二六

1 念仏塔の分布について 2 等順書名号塔 3 正

道書名号塔と名号軸 4 願主・正道の十念寺大仏

5 融通念仏塔(重柳大日堂) 6 山居仏 7 徳本と

徳住の名号塔と名号書

三 現存の念仏講……………七二七

1 光野田 2 田沢中村 3 熊倉町村の子ども念仏

4 中曾根夫領の子ども仲間の行事と善光寺様 5 重柳

大日堂の天道大日如来の講 6 真々部の行人塚とお茶

講……………七二七

第二節 庚申講……………七三五

一 庚申信仰の意味と講……………七三五

二 豊科町内の庚申講の具体例……………七三六

1 中曾根夫領の講 2 徳治郎上手の講 3 真々部

殿村の講 4 寺所観音堂付近の講……………七三六

三 庚申塔……………七三九

第三節 二十三夜講……………七四三

第四節 道祖神講……………七四七

一 道祖神と講……………七四七

二 信仰の拠り所としての道祖神碑……………七五一

三 さまざまな道祖神祭……………七五五

1 奉納型の祭り 2 三九郎 3 御柱 4 福俵曳

き……………七五五

ま と め……………七五九

第五節 伊勢講・戸隠講・秋葉講・三峰講……………七六一

一 伊勢講(伊勢太々講)……………七六一

二 戸隠講……………七六三

三 秋葉講……………七六五

四 三峰講……………七六六

第六節 御嶽講・有明講……………七六八

一 御嶽講……………七六八

二 有明講……………七七一

水利 編―土と水からみた豊科町の開発―

第一章 概 説

一 豊科町はどのように開発されただろうか……………七七七

二 水田耕土の深さから開発を探る……………七七七

三 用水路の展開形態から開発を探る……………七七七

四 水路相互間の交差形態から開発を探る……………七八〇

第二章 各集落の成り立ち

第一節 真々部村……………七八二

一 旧中曾根川・成相堰(真鳥羽堰)・呑堰による

開発……………七八二

二 呑堰開削による本郷(殿村・町村)の誕生と

七寺八小路……………七八四

三 武田氏による棒道の設定と呑堰……………七八六

四 庄野堰水系による上真々部・中村の開発……………七八七

五 田中堰による田中の成り立ち……………七八九

六 「ママベ」の名のおこり……………七九〇

第二節 飯田村……………七九一

一 飯田村は飯田堰により開発された……………七九一

二 深い耕土帯に古代・中世の開発があつた	七九一	九 熊倉の条里型地割が物語る開発経緯	八二一
三 耕土の深さと開発の経緯	七九一	第六節 鳥羽村	八二三
四 中世の飯田村	七九五	一 成相堰による鳥羽村の計画開発	八二三
五 近世の飯田村	七九五	二 下鳥羽堰による鳥羽村の先行開発	八二六
六 五箇堤防決壊による飯田村の水害	七九六	三 日光寺が物語る開発の経緯	八二六
七 交通路からみた開発の経緯	七九七	四 鳥羽館遺跡が物語る開発の経緯	八二七
第三節 小海渡村	七九九	五 鳥羽の呼び名について	八二九
一 小海渡村は小海渡堰により開発された	七九九	六 成相堰から分派した原堰により下中萱(原村)が開発された	八二九
二 二十四間橋を架した古道があつた	八〇〇	七 勘左衛門堰・十か堰による水量補強形態	八三一
第四節 中曾根村	八〇一	八 古宮跡	八三二
一 村の環境	八〇一	第七節 吉野村	八三三
二 かつての中曾根川	八〇一	一 はじめに	八三三
三 耕土分布と開発の経緯	八〇三	二 中沢による中村・中原・荒井の開発	八三四
四 中曾根川の呼び名	八〇四	三 東沢による梶海渡・唐笠木の開発	八三六
五 中世における中曾根村の開発	八〇五	四 箱樋堰・堂裏堰による吉野町の開発	八三八
六 用水路による近世の開発	八一一	五 吉野町館遺跡・梶海渡遺跡が語る開発	八三九
第五節 熊倉村	八一一	六 まとめ	八四〇
一 条里型水路が物語る計画開発	八一一	第八節 成相本村	八四二
二 原初から熊倉の水源であつた上手集落	八一六	一 成相堰による成相本村の開発	八四二
三 地獄沢の開削による熊倉氏館創置と寺村	八一六	二 成相町の誕生	八四六
四 条里型水路による中村の開発	八一八	第九節 宿場町成相・新田の誕生	八四七
五 町村の成り立ち	八一八	一 新田堰の開削	八四七
六 二本木の開発、その他	八一九	二 勘左衛門堰の開削	八四八
七 柳原の開発	八二〇	第一〇節 寺所村	八四九
八 熊倉の渡し	八二〇		

一 寺所堰による寺所の開発	八四九
二 横堰による寺所の開発	八五一
三 辛子田地名が物語る開発経緯	八五二
四 寺所堰の取水口管理跡と見られる上手木戸遺跡	八五三
五 観音堂が物語る寺所の呼び名について	八五四
第一一節 踏 入 村	八五六
一 踏入本郷は宮堰・荒堰により誕生した	八五六
二 踏入の呼び名の起源	八五八
三 恵光院の成り立ち	八五九
四 北踏入の成り立ち	八六〇
五 針俣より踏入へ	八六一
第一二節 重 柳 村	八六三
一 はじめに	八六三
二 本村・西村・原村・巾下の開発	八六五
三 広大な下田圃の開発経緯	八六六
四 交通路が語る重柳村	八六八
五 「下宮春宮造宮帳」が物語る重柳村の開発	八六九
第二三節 細 萱 村	八七一
一 はじめに	八七一
二 湧水を水源とした原始開発	八七二
三 下堰開削による細萱の計画開発	八七五
四 細萱氏の居館が物語る開発経緯	八七七
五 細萱町並みの開発経緯	八七八
六 細萱氏による矢原条里的遺構の開発	八七九
第一四節 田 沢 村	八八〇

一 はじめに	八八〇
二 大口沢の開発	八八一
三 町田堰による開発	八八四
四 湧水による田沢村の開発	八八五
五 地割が物語る寺村・小瀬地籍の開発	八八六
六 徳次郎の成り立ち	八八七
七 野田・南村の成り立ち	八八九
第一五節 ま と め	八九二
執筆分担	
あ と が き	
協力者名簿	
豊科町誌編纂委員会名簿	
豊科町誌刊行会名簿	

題字 豊科町長 水谷 太 一